

## 本講座における研究について

### テーマ「日欧における NASH および肝炎の臨床病理学的解析および比較」

本講座ではこのたび上記テーマ（申請者：琉球大学大学院医学研究科細胞病理学 教授 加留部謙之輔）の臨床研究を行うこととなりました。脂肪肝(fatty liver)は、主に栄養過多やアルコール過剰摂取が原因になり、肝臓に脂肪が蓄積する病態です。その程度が進行し、持続した場合、炎症が起こり、肝細胞の機能を障害する状態に陥ります。これが脂肪性肝炎と呼ばれる状態です (steatohepatitis)。脂肪性肝炎は従来アルコールの過剰摂取に伴って起こり、進行した場合肝硬変に至ることが知られていましたが、近年のメタボリックシンドロームの理解が深まるにつれ、アルコール非接種者においても、同様の脂肪性肝炎の病像を示す患者の存在が認識されてきました。これを非アルコール性脂肪性肝炎 (non-alcoholic steatohepatitis, NASH) と呼び、NASH は進行すると肝硬変に至り、肝癌の発生母地になることがわかり、早期発見、早期治療の対策が急がれる疾患です。<sup>1</sup>NASH には食習慣を始めとする生活習慣が大きく関わります。日本と欧米では生活習慣が大きく異なるので、その結果である NASH の病像も異なる可能性があります。また、NASH の病態把握のためには、NASH 以外の肝炎との比較が重要になります。そこで、琉球大学医学部附属病院で診断された NASH を含む肝炎の病変とベルギーの聖ルカ病院における NASH を含む肝炎の病変を顕微鏡や蛋白発現解析を用いて比較し、NASH の病態整理につなげたいというのが本研究の趣旨です。

この研究は、琉球大学医学部附属病院における NASH を含む肝炎の患者さんから診断のために採取された検体の”残り”を活用します。解析する検体には保存のための別の番号が付けられます。その検体番号と施設内 ID 番号、病型、性別、生年月日とが連結可能な形で、管理台帳ファイルに管理・保管されます。管理台帳ファイルは当院内でパスワードをかけたコンピューター内で保管され、第三者が患者さんを特定することはできません。検体の”残り”から作成された標本を聖ルカ病院に送付することや、この研究に参加された方々の年齢や性別、検査結果などの情報を聖ルカ病院と共有したり、学会や論文で公表・使用されることがありますが、上記のように全て匿名化した上で行われるので、個人が特定されることはありません。また、この研究の記録が適切に残されていることなどを確認するために、当院の関係者が診療記録を見せていただき、内容の照合を行うことがあります。

本研究は琉球大学の臨床倫理審査委員会にて承認を受けて進めます。使用に同

意されない場合は自由に使用の拒否ができますし、それによって診療の内容が影響することは一切ありません。なお、研究分担者には申告すべき利益相反はありません。

ご不明な点は、以下にお問い合わせください。

琉球大学大学院医学研究科細胞病理学

教授 加留部 謙之輔 (かるべ けんのすけ)

TEL: 098-895-1123

FAX: 098-895-1407)